

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：43925

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02707

研究課題名（和文）国際共同修士学位（JMD）の付加価値・市場価値に関する研究 世界トップ500大学

研究課題名（英文）A Study on Added Values and Market Values of International Joint master's degrees

研究代表者

二宮 皓（Ninomiya, Akira）

愛知みずほ短期大学・その他部局等・非常勤講師

研究者番号：70000031

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、国際共同修士学位プログラムの付加価値と市場価値を、欧州の非英語圏の大学を中心として、特にエラスムス・ムンドス共同学位（修士）プログラムの調査研究成果を踏まえて、探る研究であり、日本の国際共同学位プログラムの推進に貢献することを目的とするものである。研究の成果として、国際共同学位が、海外の異なる複数の大学の強みを活かした学修プログラムを共同で開発し、参加校の間の短期留学を必須にするなどの付加価値を高め、修了生の就職コンピテンシーや就職後の年俵に見られるような通常の学位修了者よりも高い、有利なメリットを享受する市場価値の高い学位プログラムであることを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の大学の国際競争力を改善（優秀な留学生を惹きつける力や日本人及び留学生の卒業生・修了生を世界的に通用するグローバル人材として育成する力）するためには大学のカリキュラムと学位の国際的通用性と魅力を高める必要がある。日本の大学はこれまで優れた留学生を惹きつけてきたが、今後は留学生のみならず日本人学生の国際的通用性を高めることが必要である。学位の付加価値と市場価値を高める必要がある。このような意図から最も効果的な学位プログラムが海外の大学の強みと共同・協働する国際共同学位の開発である。本研究はまさに国際共同学位の付加価値と市場価値が高いことを確認した研究であり、大学の国際化に貢献するものである。

研究成果の概要（英文）：The study aims at contributing the development of international joint degree programs in Japan, by identifying the added values and market values of those international degree programs, especially those of non-English speaking countries in Europe, and by identifying those values of EMJMD programs in EU through several surveys. Findings are: (1) International joint degree programs increase the added values of degree programs through joint development of studies among some foreign universities, including obligatory mobility of studies among them, and (2) International joint degree programs provide the alumni the higher and better employability with required competencies than those alumni of conventional single degree, and provide advantageous and merits of market values.

研究分野：比較国際教育学

キーワード：国際共同学位 付加価値 市場価値 グローバル人材育成 大学の国際化 留学 Employability EMJMD

## 1. 研究開始当初の背景

わが国でも大学設置基準を改正し、海外の大学との共同学位を設けることが可能となった。最初の国際共同学位（Joint Degree）は名古屋大学とアドレイド大学（医学系・博士学位）であった。その後岐阜大学、京都大学、立命館大学などによる国際共同学位（国際連携学科等の設置）が開発されていたが、その数は極めて少なかった。その背景には、多くのエネルギーとコストを負担してまで国際共同学位を設置するメリット等が不明確であるということがあった。

そこで欧州の試みなどを参考に非英語圏の大学が取り組むメリットや学生が享受できる価値について解明することでもって国際共同学位普及の機運を高める必要があった。

## 2. 研究の目的

本研究は、非英語圏における国際連携学位の中でも特に、優れた留学生の獲得及び学び直しの視座から、欧州等で最も多く開発されている国際共同修士学位（JMD）に絞って、①世界大学ランキングトップ 500 大学（THE-QS2017・18 年度）を対象とし、JMD プログラムの世界的な開設動向、②欧州（特に非英語圏）を中心に、JMD プログラムについて想定されている「付加価値（差別化や魅力）」及び③グローバル化する高等教育市場（リクルート）と労働市場（人材輩出）において想定される「市場価値（コンピテンシー、人材像、キャリアパス、グローバル企業・国際機関などへの国際市場へのアクセスなど）」の 3 点を解明し、わが国の国際共同学位プログラムの開発促進・支援と制度改善・改革に資することを目的とする。

## 3. 研究の方法

基本的に文献資料に基づく調査研究を行うとともに、欧州の大学（オランダ、ドイツ、ベルギーなど非英語圏）の EMJMD プログラム担当者等へのインタビューも行う。また後述している REDEEM 研究グループの会合に参加した（オンライン及び対面）。

## 4. 研究成果

### (1) 世界大学ランキングに基づき、トップ 500 大学（非英語圏の大学 254 大学）における国際共同修士学位プログラムの戦略的活用

特に欧州の諸大学における国際化戦略と国際共同学位プログラムの開発状況とを調査し、国際的な共同学位及び EMJMD（エラスムス・ムンドス共同修士学位）プログラムの取組が、大学の名声と魅力を高め、留学生市場から多くの留学生を惹きつけることに成功したことを明らかにできた。とりわけ非英語圏諸国の大学でトップになっているスイスの ETH Zurich は国際大学連携を軸とする国際化戦略が世界的大学になる最も有効な戦略であることを明言し、取り組んできている。なお THE の調査では、世界 28 か国 245 大学の 95%がすでに国際共同学位プログラムを展開していた（THE,2018）（注1）。

### (2) 国際共同学位の付加価値論

付加価値は、4 つに大別される。まずサービスなどが本来もっている価値（伝統的な国内の単一の学位）に制度的・運営的な工夫によって生み出された付加価値、次いで国際共同学位プログラムを履修することによって学生が享受できる機能的価値（教育的価値）と情動的価値、国際共同学位プログラムを提供する大学にとっての価値、そして最後に国家・社会（たとえば EU）にとっての価値があると想定できる。

#### 1) 国際共同学位の制度的付加価値—国内の学位との対比

(ア)Mobility・留学・・・在籍大学以外の外国の大学での一定期間の教育課程の履修（しかも教育課程で用意された計画的留学）とそれに伴う異文化理解と体験、外国語習得などの機会

(イ)Joint Study Programs・・・複数の大学が国際的に連携・協働して開発した共同学位課程。自国大学では学べない内容、異なった学び方の学び、より質の高い、国際性の高い、卓越した研究と教育の機会

(ウ)Joint Admission・・・入学者の国際共同選抜と多様な学生集団の確保：自国のみならず世界から優秀な留学生の獲得＝多様性の高い優秀な学生集団の中で切磋琢磨できることと世界的ネットワークが形成できる（学びの環境とキャリア上の財産）などの機会

(エ)Joint Degree・・・複数の大学による修了証書・学位記であり、国際的通用性（少なくとも当該大学の所在国での認知及び国際的認知）の向上への期待

#### 2) 学生にとっての機能的価値と情動的価値（アウトカム、市場価値（Employability）の内実を担保する資質・能力、意欲等）

(ア)機能的価値（教育的価値・効果・利益・便益・国際的通用性）・・・新たな付加的教育価値（人格的価値、知識・スキル価値、専門的価値、社会的価値など）、学位の国際的通用性、国際的ネットワークの構築・利用など

(イ)情動的価値・・・満足度・誇り・自尊感情等。期待以上のサービス、満足感、学生・修了生としての誇り、エリート意識など感情的・情動的価値が高くなる。

### 3) 大学にとっての機能的価値（便益、大学にとっての国際的な留学生市場における優位性）

国際化の加速、世界大学ランキング向上、大学の魅力と優秀な学生確保、教職員の研究・教育力の向上など多くのメリットが期待される。大学の国際競争力の確保（魅力向上）。

### 4) 国家・社会（EU）にとっての価値

優秀で多様な人材の確保と労働市場への人材供給と国際競争力の向上が期待される。

#### (3) 国際共同修士学位の市場価値論

##### 1) Employability

労働市場における価値（時代が求める Employability の育成と時代のニーズに応える優秀な人材の供給）には、①社会（特に企業などの経済界・労働市場）から求められる価値、②企業等が求める人材ニーズであり、雇用主が決める価値、③留学生市場における価値、つまり優秀な留学生の獲得（国際競争力強化）の価値であり、その内実は、国際性の高い Employability の獲得である。

したがって国際共同学位の市場価値も、①Employability としての価値、②その成果としての Employment(雇用)としての価値、③さらにはキャリア（昇任、昇給がスピードが速いなど）における価値として表現される。

ちなみに Employability は、1980 年代に米国で生まれた考え方（合成語）、長期雇用契約がでなくなり、他社に行っても通用するような能力を習得できるよう研修や教育の機会を労働者に提供したことから生まれた考え方であるが、わが国では、厚生労働省『労働白書一平成 10 年版労働経済の分析』（1998）においてはじめて「エンプロイアビリティ」概念が登場し、「予期せぬ労働移動に加え、外部労働市場で通用し、企業に雇用されることを可能とする職業能力」（厚生労働省（1998））と定義され、2001 年に再度、①職務遂行のための知識や技能、②職務遂行にあたっての個人がもっている協調性や積極性などの思想的、行動的特性、③個人が潜在的にもっている人柄や性格、信念、動機や価値観（個人的なもので、潜在的に見えにくいもの）として明確化されている（厚生労働省（2001））（注 2）。

欧州の高等教育における最も重大な政策は、①ボローニア・プロセス（高等教育の学位段階の確立）、②EU の Erasmus 事業（大学生等の Mobility 及び③ECTS（欧州単位互換・蓄積システム）にある。事業の目的は、「①学習者の人格的発達(personal development)を改善し、②学習者がアクティブ市民としての社会参加を改善し、そして③欧州域内外の労働市場における Employability を改善するという観点から、学習が学習成果（知識・スキル及びコンピテンス）を獲得するのを支援する」ことにある（EC（2017））。この狙いが、他の欧州域内循環(intra-European circulation)プログラムと大きく異なる点であり、Erasmus は、とりわけ、Employability が Mobility の鍵部分であることから、専門的発達（professional development）を促進するという明確な目的をもっている。その意味では Erasmus 事業は、欧州をより employable にすることが期待される事業である。

Erasmus Impact Study（EC（2014）（注 3））では、直截的に Employability への効用があることを示唆している。それによると、Mobility の効用について 49 項目の質問を行い、それを 6 因子に集約して、留学が大きなインパクトを与えると同時に雇用主も学生もその 6 項目こそが Employability の内実であるとみなしていた（雇用主の 85%、卒業生の 80%が肯定）。その 6 因子(the memo©factors)についての卒業生の自己評価をみると、①Confidence（卒業生の 95%が肯定）、②Curiosity（同 93%）、③Tolerance of ambiguity（同 90%）、④Serenity（同 89%）、⑤Decisiveness（同 79%）、⑥Vigor（58%）。平均では 84%となっている。また、卒業生の 90%が、communication skills, analytical skills 及び adaptability が最初の職を得るうえで極めて重要であったと回答している。またキャリア形成における肯定的インパクトも評価されており、10 年後の昇進においても有利であったという（昇進率が非流動学生より 20%も高い）。この傾向は、2018 及び 2019 の Erasmus Impact Study でも同様であった。

以上のように、国際共同学位の市場価値については、Employability を中心としてアプローチすることが妥当である。

#### 2) EMJMD 取得者の就職後の給与にみる市場価値

EMJMD の目的・狙いは、①世界における欧州高等教育の魅力と卓越性を高めること、②欧州高等教育の卓越性を陳列するための大学間協働事業、③優秀な学生に奨学金を支給し、共同学位プログラムの一環としてすべての学生にとっての Mobility の機会を与えることでもって、欧州に優秀な人材を惹きつけること、にある（EC の公式頁）。EMJMD プログラム（2004～2019）では、33 か国 610 大学等が参加し、535 プログラムが展開された。その間、24,500 人の学生が奨学金を受領（金額 17 億ユーロ）し、プログラムを修了している。わが国も 2019・20 年度から日欧共同学位事業（3 事業・15 大学）が開始され、132 プログラム、2600 人の学生に奨学金が授与された（日本側は世界展開力強化事業として展開）。

EMJMD プログラムには、当初より以下の学生へのインパクトとして、①Employability の改善、②コンピテンス・スキルの改善、③国際的・異文化間的・学際的経験を通じた学問的な新しいマインドセット・アプローチの構築、④学生間のネットワークの促進及び⑤知識基盤社会への

貢献の向上の 5 つのインパクトが期待されていた (EC の EMJMD のサイトより)。Employability 改善が最も大きい期待であることがわかる (EMJMD の公式サイト)。

REDEEM プロジェクト (Reforming Dual Degree Programmes for Employability and Enhanced Academic Cooperation) は、7 か国 8 大学の研究者が理系 (CLUSTER コンソーシアム) の EMJMD プログラムのインパクトを EC の助成金により多年にわたって行った調査研究事業である (REDEEM1 (2015~2017) と REDEEM2 (2018~2020)) (Varano (2021)

(注4)。8 大学 (国名) は、KTH : Royal Institute of Technology, Stockholm (スウェーデン)、UPC : Universidad Polytechnica de Catalunya, Barcelona (スペイン)、TUD : Technische Universität, Darmstadt (ドイツ)、KIT : Karlsruhe Institute of Technology (ドイツ)、AALTO : Aalto University, Helsinki (フィンランド)、IST Instituto Superior Tecnico, Lisboa (ポルトガル)、TALTECH : Tallinn University of Technology, Tallinn (エストニア)、CVUT : Czech Technical University, Prague (チェコ) である。

なお申請時のプロジェクト名称は、Dual Degree (DD) プログラムとなっているが、後には、JD 研究プロジェクトと表記も変わってきており、Jointness が重要な主題となっている (Joint プログラムの結果、学位は DD の形をとっても、それも JD プログラムとして定義している)。このことから、本研究はまさに JD のインパクト研究であると評価し、JD の市場価値に関する基本的データであるといえる。

### 3) REDEEM 2 プロジェクトの調査結果 (中間報告) にみる EMJMD の付加価値と市場価値

調査は、2016 年と 2019 年に実施され、対象は、機関 (大学) 調査と修了生 (同窓生) 調査 (EMJMD 修了生と通常修士学位の修了者の対比) で、調査対象者数は、2,500 人から 3,000 人となっている。まず EMJMD プログラムの修了者 (卒業生) にみる経済的インパクト (効果) についてみると、通常の学位取得者に比べてみると、EMJMD 取得者は、年俸が高い (南欧 2.4 倍、中欧 2.1 倍、北欧 1.7 倍、アジア 1.4 倍、北米 42% 高)。全体でも一般の修士学位修了者の年俸が 4,670 ユーロであるの対して、EMJMD 修了者のそれは、10,572 ユーロとなっており、226% 増となっている。

#### < REDEEM2: Salary Gap 地域別給与の差 (JD 修了生と一般の修了生) (JD 生の方が多) >

- ・ 北米・・・+42%
- ・ 北欧・・・+173%
- ・ 中欧・・・+210%
- ・ アジア・・・+147%

(出典) <https://www.redeem2.eu/>

#### (4) 留学の効用と市場価値

Erasmus 事業における留学・移動 (Mobility) の効用と雇用を支えるコンピテンシー (市場価値) についても検討しておくことが重要である。つまり EMJMD プログラムなど国際共同学位の重要な側面は「短期留学」が必須となっている。

さて Bracht (2006) の調査では、(注5) 流動学生と非流動学生のスキルや資質能力にはどの程度の差があるかが、流動学生の自己評価のみならず、大学の事業担当者の目や雇用主の目を通じて対比的に明らかにされている。それによると、流動学生は、①外国語能力、②異文化理解と異文化間コンピテンシ、③異文化的背景を有する労働者と協働する力、④適応力やイニシアチブなどの汎用的能力、などにおいて優れている。Mobility の効用が高く評価されていることがわかる。特に雇用主の非流動学生と流動学生の資質・能力獲得に関する評価は注目に値する。ここでの雇用主の評価では、非流動学生と流動学生のそれぞれについて、5 段階評価で行っている。

< 下記のリストの ( ) 内の数値は、5 と 4 の評点を付した雇用主の割合 (%) >

#### A Intercultural competences (異文化間コンピテンシ) (非流動学生 (%) vs 流動学生 (%))

- ・ 外国語能力 (48%vs 88%)
- ・ 文化的差異の理解力 (28%vs 76%)
- ・ 異文化の労働者と協働する力 (40%vs 76%)
- ・ 他国の経済社会等に関する専門的知識 (16%vs 59%)

#### B Knowledge and methods (知識・方法論)・・・非流動学生と流動学生の評価に差はない

- コンピュータースキル (66%vs 69%)
- ・ 専門分野の方法論知識 (54%vs 64%)
- ・ 専門分野の理論的知識 (58%vs 62%)

#### C General competences (汎用的資質・能力)

- ・ Adaptability (適応力) (57vs 81%)
- ・ Initiative (イニシアチブ) (62vs 79%)
- ・ Getting personally involved (主体的参画力) (67vs 79%)
- ・ Assertiveness/decisiveness/persistence (主導力・決定力・持続力) (57vs 75%)
- ・ Analytical competence (分析的能力) (59vs 70%)
- ・ 問題解決能力 (58vs 70%)
- ・ Written communication skills (文字による

- コミュニケーション力) (58vs 70%)
- ・ Planning/coordinating and organizing (企画力・調整力・組織力) (50vs 67%)
- ・ Loyalty/integrity (忠誠・統合性) (62vs 66%)
- ・ 集中力 (59vs 63%)
- ・ Accuracy/attention to detail (正確性・仔細注意力) (57vs 59%)
- ・ Applying rules and regulations (ルールや規則の適用性) (52vs 58%)

以上のように、国際共同学位の付加価値を構造的に構想し（仮説的であるが）、中でも国際共同学位の中核となる制度的・運営的付加価値から導き出される市場価値、とりわけ **Employability** へのインパクトについて、Erasmus 事業と EMJMD 事業を中心として考察を行ってきた。EMJMD を見る限り、国際共同学位の付加価値的がもたらす効果が高く、プログラム修了者の **Employability** を高め、国際的通用性を高め、自国以外への就職者が少なくない（通常の修了者が 20%程度であるのに対し、EMJMD 修了者は 54%と多い）こともあり、年俸でも世界の労働市場で通常の修了者よりは 2 倍も多くなっていることから、EMJMD に代表される国際共同学位は、非英語圏諸国にあって、国際的通用性の高い **Employability** を保障することで、世界（特に EU）の労働市場のニーズに的確に応える人材供給に貢献しているといえる。

多くの調査研究ではもちろん、留学や **Mobility** がもつ効果やインパクトが非常に高く、国際共同学位プログラムにおける **Mobility** が重要な部分を占めていることは否定しようがないが、**Joint Study Programs** と **Joint Admission** が、教育課程としての留学・**Mobility** の質を高め、**Academic** な教育水準と多様性を高め、学生等の多様性を高め、学生の国際的ネットワークを広げ、EU の事業という部分が世界の雇用者の国際共同学位の認知を高めている、ことから通常の学位に比較して高い市場価値を有していると結論できる。加えて、国際留学生市場においても比較優位性を持ち、世界から多くの優秀な学生を惹きつけていることも間違いない。

しかしこのことが日本やアジアの国のそれに直接的に当てはまるかどうかは今後の国際共同学位の開発・提供と調査研究を待つことになる。英米や豪州などの場合には、英語圏という最も高い魅力があり、世界大学ランキングでも上位の位置を占める大学が少なくないことから、英米の学位がより高い市場価値を持ち、世界から留学生を惹きつけている中で、国際的な共同学位が、自国民にどのような市場価値をもたらすかについては、非英語圏の場合に比して、それほど問題ではなく、むしろ国境を超える高等教育サービス (TNE) の戦略として、DD や JD が提供されているといえる。

#### <引用文献>

- ①Times Higher Education, World University Ranking, 2017-2018 のデータ利用。
- ②厚生労働省『労働白書一平成 10 年版労働経済の分析』1998 年。
- ③EC, The Erasmus Impact Study: Effects of Mobility on the skills and employability of students and the internationalisation of Higher Education Institutions、2014,  
[https://ec.europa.eu/assets/eac/education/library/study/2014/erasmus-impact-summary\\_en.pdf](https://ec.europa.eu/assets/eac/education/library/study/2014/erasmus-impact-summary_en.pdf)
- ④Varano, M. & Mendes, R., The impacts of Joint Programmes on HEIs and their graduates-A comparative analysis, EAIE 2021(Helsinki)、SessionS4.15 発表資料、2021。また、最終報告については、<https://www.redeem2.eu/>参照。
- ⑤Bracht, O. et al., The Professional Value of ERASMUS Mobility, Final Report, 2006,

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 二宮皓	4. 巻 68
2. 論文標題 欧州における共同学位の価値に関する研究－REDEEMの調査研究成果を中心として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育学研究紀要（中国四国教育学会）	6. 最初と最後の頁 644 649
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二宮皓	4. 巻 67
2. 論文標題 国際共同学位の市場価値に関する研究－Employabilityを中心として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育学研究紀要（中国四国教育学会）	6. 最初と最後の頁 98 103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二宮皓	4. 巻 66
2. 論文標題 国際共同学位プログラムの展開過程とその価値に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育学研究紀要（中国四国教育学会）	6. 最初と最後の頁 245 250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11501/6035966	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件／うち国際学会 2件）

1. 発表者名 二宮皓
2. 発表標題 国際共同学位の市場価値に関する研究
3. 学会等名 中国四国教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二宮皓
2. 発表標題 国際共同学位プログラムの展開過程とその価値に関する研究
3. 学会等名 中国四国教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akira Ninomiya
2. 発表標題 New Possible Designing of International Joint Degree Programs in Asia and the Pacific: Introducing the Japanese newly developed legal scheme of IJD
3. 学会等名 The 43rd Pacific Circle Consortium (PCC) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二宮皓
2. 発表標題 国際共同学位の価値に関する研究
3. 学会等名 中国四国教育学会第71回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二宮皓
2. 発表標題 国際的共同学位に関する研究
3. 学会等名 中国四国教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akira Ninomiya
2. 発表標題 The New Legal Scheme of International Joint Degree of Japan- A Proposal to develop UMAP Model in our Region
3. 学会等名 Asia Pacific Association of Internantional Educaters, 2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関